

ドキュメンタリー映画
「天から見れば」
説明資料

1. 映画概要

タイトル 天から見れば

- ・2011年6月完成 ・ドキュメンタリー 約95分 ・監督 入江富美子
- ・主な出演者 南正文 小林綾子（再現映像） 大石順教尼
- ・制作 ひとさじの砂糖ムーブメント
- ・配給 株式会社トータルプレイズ

2. 映画内容

少年時代に事故で両手を失い、
絶望の淵にあった南正文少年を救ったのは、
同じく事件で両手を失った大石順教尼だった一。
日本画家、南正文さんと順教尼の生き様から
奥に流れる力を描き出します。

南正文さんは小学校三年生の春休みに製材業を営む父を手伝っている時、機械のベルトに巻き込まれて両腕を失ってしまいました。十四歳の時、近所の人のすすめもあり、両親と共に京都の大石順教尼を訪ねました。大石順教尼もまた、十七歳の時、養父に一家五人を斬殺するという「堀江六人斬り事件」の巻き添えとなり両腕を失っていました。十九歳の時、カナリヤが雛を育てるのを見て、口に筆をとることを思いつき、以後、独学で書画の勉強に励み、口で筆をとり絵画・書を描いていたのです。

順教尼は、南さんの両腕を失ってからの身の上話をすべて聞いた後、「分かった。私の弟子になりたかったら、三つだけ条件がある」と言いました。一つは、堺から京都まで一人で来なさい。そして、今までは足を使っていたかも知れないけれども、これからは口を使いなさい。そして、三つめは、絵を描きなさい。と。そこから順教尼の慈愛に満ちた修業が始まります。南さんは順教尼の生き方に接して人生に開眼、後ろ向きだった心が大きく転換していきました。

現在、南さんは順教尼の教えを受けて、画家として活躍、妻や子どもたち、たくさんの友人に囲まれ、楽しく豊かに日々を送る。豊かに日々を送られ、2012年12月にお亡くなりになりました。南さんの姿は今もなお、多くの人の希望となっています。大石順教尼の最後の弟子であり、教えを引き継ぐ南さんから「どんなできごとでも自分の考え方しだいでよきことになる」大石順教尼の教え「禍福一如」（かふくいちにょ）の人生が溢れだしているのです。

＊＊出演者の言葉～映画「天から見れば」より＊＊

南正文さん（日本画家）

『『禍福一如』っていうのは、幸せも不幸もひとつなんだよ。心の持ち方で幸せにも不幸にもなるんだよっていう意味なんです。』

石川洋さん（托鉢者）

「南さんからね、先生の縁が動いていくってことは、終わりから始まる終わりなき縁ということなんです。」

大石順教尼

「両手のないものはなにもできません。出来ませんけれども、お大師様は大勢の何百、何千の方々の手を私に下さいました。これが大きな財産でございます。」

3. 映画の狙い

●背景

生きていく中で、大きな失敗や、出来事で人生が大きく変ること、また自分の心が傷つき、この先、生きて行くことに希望を見出せないことがあります。また普通に見せているけれど、心の中で一人抱えている人も少なくないと思うのです。また、人のことを信じられなかったり許せなかったりすることで、同じように辛いとか不幸だと感じている人も多いと思います。映画を通して、自分が置かれている境遇や環境・人間関係などの捉え方が変化し、そこからより良い方向に変えて行こうとするきっかけを感じていただきたいと思います。それにより、自分も幸せになり、周りも幸せになることにつながっていきます。

●映画の狙い

幼いころに両手を失うような耐えがたい境遇にありながら、苦しみながらも、たくましく生きる生き様を伝えることで、どんな状況の中でも人生をあきらめるのではなく、ありのままの自分を受け止めて、生きていくことのすばらしさ、力強さが映像を通して伝わります。また、両腕を切り落とされ、不遇に陥れた張本人を許し、原因を人ではなく「その行為を生みだした感情にある」と、人生を明るく楽しいものにしてきた先人がいることを知って戴けると思います。同じものごとをどう捉えるかという、こころの持ち方次第で、幸せにもなるし、不幸にもなるということが映像全体から伝わってきます。

それが、現在さまざまな悩みを持たれている方、東日本大震災で未曾有の被害を受けて、苦境にある人にも、生きていく希望や勇気、また許すところを持って明るく生活するきっかけになることを願っています。

●映画の影響

映画を鑑賞された方の声から、以下の効果があると考えます。

- ・過去から連綿と続くいのちの大切さを体感する
- ・人のいのちを大切にすることが芽生える
- ・人を分け隔てなく受け入れることの素晴らしさを知る
- ・病気や障がい差別ではなく、個性として受け入れることができる
- ・「ひとりひとり、違っていいんだ」と人を尊重する人権の視点が芽生える。
- ・自分も大切な存在なんだと、ありのままの自分を受け入れることができる。
- ・生きる力が湧いてくる



そのことによって、

子ども達の、いじめや不登校、自殺の問題解決の一助になる。
子ども達は、たくましく生きていく、豊かな心・人間性をはぐくむ。
他者を思いやる優しい気持ちが芽生える。
相手を尊重し、協調性をもって関わるセンスがみにつく。
病気や障がいを持った方が、それを受け入れて明るく生きていく。
育児中のお父さん・お母さんが、ありのままの子どもを受け入れ慈しむ。
一人一人が、自分を受け入れ、優しい気持ちや活力を取り戻していく
社会では、怒りや憎しみが消失していき、つながりや感謝が生まれていく

そんな可能性を持っていると考えます。

【参考資料】

A. 鑑賞者の声

南正文さまの「禍福一如」の人生が入江監督の宇宙からの力で
最高のドキュメンタリー映画となって、見る私たちに凄いパワーを
頂きました。この世に“生”を受けた我々はすべて“生きる”使命が
あることを強く深く感じました。ご縁に感謝いたします。
皆様のご健康をお祈り申し上げます。

m. mさん

観終わった後、しばらくぼーっとしていました。自分の命の中に
すべての命があるんだと思いました。私一人の命じゃない。
受け継いできたすべてが私の中に詰まっている。
この地球で起きたあらゆること、つらいこと、悲しいこと、
命が経験したすべてがこの私に詰まっているんだ、そして
つらいことも悲しいこともすべてが宝なんだと、命が感じていました。
この私に命をつないでくれたすべての命に心から心から感謝の気持ち
でいっぱいです。

y さん

仲間たち、スタッフさんたちの
輪と和で温かい映画となっているように思います。
温かい涙があふれましたもの……。 “天から見れば”を
拝見して、初めて知る人ばかりでした。生き様、あり方が
伝わってくる方たちばかり……。私自身も律することを
思い出しました。「また、歩き出していこう!」と思える
映画です。

服部美智子さん

とってもとっても意義あるひとときでした。ありがとう! ありがとう!!
この映画にめぐり逢え、今日只今から、又、私達の人生をお役に立てる私達を
見つけながら……。歩み始めます。

橋本太七さん・由紀子さん

何と言い表したら良いのでしょうか? ととても胸がいっぱいになり、
涙があふれ出てきました。南先生の生き方、大石順教尼の教え、
監督、皆の想いが伝わってきました。私自身の今日から（今から）
明日の活力になりそうです。

S. 0 さん

天から見れば、とても考えさせられました。
今、自分にできることを、自分にしかできない形で取り組むこと。
一人の祈りが誰かの支えになり、誰かの祈りが自分の支えとなる。
くしくも東日本大震災で日本中がひとつにならなければいけない
この時期に本当に必要な映画だと思います。
今日はありがとうございました。

F. I さん

この私だから、この道を通ってきたから、幸せなんです。
私もそう胸を張って言いたいなあと思いました。
目の前の出来事は全て天からの贈り物で、大切な経験。
苦しいと思うことでも、一呼吸置いて、そこから学べばいい。
改めてそう感じました。ありがとうございます。

牧野 茂さん

南さんの書いた言葉（禍福一如）に込められた想いの
深さに心動かされました。昨年起きた震災で色々な事が
ありましたが、今年は一人一人が輝けるようになると
いいなと思います。そして私自身も自分をありのままに
生きていこうと思わせて頂きました。ありがとうございました。

S. T さん

「とっても感動しました。いのちを輝かせていきる素晴らしさを、
人は一人では生きていない その支え合い、学びこそ、
生きる原動力なのだと教えていただきました。
ありがとうございました」

柴田 真由美さん

B. 制作団体概要

☆ひとさじの砂糖ムーブメント（制作）

ひとさじの砂糖とは、すこしのわくわく、少しの行動、少しの勇気、少しの他者貢献などなど。人生にほんのひとさじの砂糖を加えていこう、そして人にもひとさじのサポートや愛や感謝を持とうというムーブメントを起こそうと立ち上げた市民団体です。

●概要

団体名：ひとさじの砂糖ムーブメント

立ち上げ日：2005 年 12 月 31 日

代表責任者：入江富美子

活動内容：ドキュメント映像制作、イベント企画、グッズ企画

所在地：〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 11-5-701 (Total Praise 内)

T E L : 06-4303-5088 (Total Praise 内)

F A X : 06-4303-5091 (Total Praise 内)

E メール : movie@totalpraise.jp (Total Praise 内)

●沿革

2005 年 12 月 ひとさじの砂糖ムーブメント立ち上げ

2006 年 2 月 ドキュメンタリー「1 / 4 の奇跡～本当のことだから～」を E・E プロジェクトとともに制作開始

2007 年 2 月 「1 / 4 の奇跡～本当のことだから～」完成&初上映

映画初上映会&出演者山元加津子講演会 大阪にて開催 来場者約 1,000 名以降、全国各地及びアメリカなどで、自主上映が開始される。

2007 年 6 月 “1 / 4 の奇跡” T シャツの企画・販売

2007 年 12 月 映画制作本“1 / 4 の奇跡 もう一つの、本当のこと” 三五館より出版

2008 年 7 月 ドキュメンタリー映画「光彩～ひかり～の奇跡」完成&初上映

2011 年 6 月 ドキュメンタリー映画「天から見れば」完成&初上映

2013 年 8 月 ニューヨーク国連にて「天から見れば」上映

*入江富美子プロフィール

大阪出身。ファッションデザイナーを経て、アロマセラピストのプロ養成専門学校講師として活動。その後、自身の体験から「あなたのままで大丈夫」というメッセージを多くの人に伝えたいと思い、未経験ながら映画「1/4 の奇跡～本当のことだから～」(2007 年)を制作。映画監督デビュー作であるこの作品は海外 18 か国 1600 か所で上映され、観客動員数は 16 万人を超える。他に「光彩～ひかり～の奇跡」(2008 年)、「天から見れば」(2011 年)も発表。全 3 作品とも日本だけでなく海外でも高評価を得る。また村上和雄ドキュメント「SWITCH」(鈴木七沖監督)では、「ミッションを生きる」女性として出演し、話題となる。著書に『1/4 の奇跡～もう一つの、本当のこと～』(三五館)、絵本作家のぶみとのコラボ絵本『おへそのさき』『わけたら ふえる?』(七田教育出版)。「すべては今のためにあったこと」(海竜社) 中山靖雄著をプロデュース。

2014 年 8 月には、『へそ道～宇宙を見つめる 使命を見つける～』をサンマーク出版より出版。現在は、自ら考案した「へそ道」のワークショップを主宰。国内のみならず海外でも講演、ワークショップなどの活動をしている。

C. 映画出演者プロフィール・制作スタッフ

●主な映画出演者プロフィール

*南正文

1951年9月大阪府生まれ。

小学校3年生の春休みに製材業を営む父を手伝い、機械のベルトに巻き込まれて両腕を失った。

事故のため2年遅れて、養護学校へ4年生から入学。

口、足、肩を使って勉学と生活訓練に励んだ。

14歳の時、今は亡き口筆画家大石順教尼に師事、口での描画と生き方の修行を始めた。

師事後1年で口筆画"若武者"が堺市展に初入選。その後も公募展で入選、受賞を繰り返す。

1995年には堺市展の審査員となり、現在は展覧会を離れ個展を中心とした活動をしている。

1996年に堺市身体障害者相談員となる。

1999年には財団法人ソロプチミスト日本財団より社会貢献賞を受賞した。

2012年12月 永眠

*南弥生

ヨガ講師として活躍中、ある会の役員同士として南正文さんと出会う。

正文さんの講演を聞き、順教尼の存在を知る。その後がんを患い悩んだ時に、順教尼の著書『無手の法悦～しあわせ～』に助けられ、心の支えとなる。

正文さんとの結婚を機に、天職と思っていたヨガ講師をすっぱりやめ、正文さんの画家としての活動を支えるサポーターとして生きていくと決意。

正文さんの創作活動を支え続け、現在は、正文さんの個展などを開催している。

●映画制作スタッフ

監督／構成／脚本／撮影／編集／マスタリング／音楽 入江富美子

撮影／編集／マスタリング 斎藤満雄

録音 小野敬広

プロデュースコーチ／ナレーション 岩崎靖子

エンディング曲「天から見れば」 弓削田健介&えりい

作詞 えりい

作曲 弓削田健介&えりい

挿入曲「CALL～きみを呼んでいる～」 プライナス

作詞・作曲 えりい

編曲 筒井タケオ&プライナス

音響、ミックス&マスタリング 小林一尚 Support M and M

☆ 配給について

配給会社：株式会社トータルプレイズ

代表者：代表取締役社長 入江富美子

所在地：〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 11-5-701

設立：2014 年 6 月

事業概要：

- ・映画、音楽、映像に関する制作、企画、実施、運営、管理
- ・各種セミナー、講演会、イベント、研修の企画、実施、講師派遣、主催
- ・出版物の執筆、企画、撮影、編集、出版
- ・アロマセラピーに関する機器、精油、の製造、販売、技術指導、セミナー

T E L : 06-4303-5088

F A X : 06-4303-5091

E メール : movie@totalpraise.jp

ホームページ : <http://iriefumiko.com/movie/>

～自主上映会開催までの簡単な流れ～

1) 上映日程・会場・上映会の規模を検討する

ご希望の上映場所（ホールや会議室での上映会、小さなカフェやサロンでの上映会等）、上映日をご検討ください。上映会の規模は、会場が決まると自ずと決まってくるかと思います。

上映にあたり、プロジェクター、DVDデッキ、スピーカー、スクリーンが必要です。こちらはすべて主催者様の方でご用意をお願いしております。区民ホールや、民間の会議室などだと、この設備を借りることもできます（有料の場合もあるので、会場側にご確認ください）

2) 参加費の設定金額を検討する

上映料金は次頁の表に記載の通りです。

※お支払いいただく上映費は、最終的に当日の参加人数に応じて算出します。

※算出した額に、1 円未満の端数が出た場合には切り捨てします。

上映料金以外にかかる費用；会場使用料、機材のレンタル料、チラシ印刷費、送料など

上映会料金 (貸出料金・税込み)

コース名	基本料金(1日)	追加料金		
			大人(1人当り)	高校生以下(1人当り)
30人コース	27,000円	30人を超えると	810円	405円
50人コース	41,040円	50人を超えると	594円	297円
100人コース	64,800円	100人を超えると	540円	270円
300人コース	162,000円	300人を超えると	453.6円	226.8円
500人コース	243,000円	500人を超えると	405円	202.5円
1,000人コース	一律432,000円			
学校主催コース	一律32,400円			
医療・福祉施設 研修コース	一律32,400円			

3) 自主上映のお申込み

上記1) がある程度決まった時点で、トータルプレイズ配給チームまでご連絡ください。

メール：movie@totalpraise.jp

電 話：06-4303-5088

※すべて完ぺきに決まってもなくても大丈夫なので、まずはご連絡又はご相談ください。

4) 告知・集客

詳細が決定したら、当日に向けての告知を始めてください。チラシ作成のために写真等のデータが必要な場合は、その旨ご連絡いただければお送りします。**PDF** のデータであれば、映画の公式 **HP** からダウンロードいただけますので、そちらもご活用ください。

映画の公式 **HP**、入江富美子の公式 **WEB** サイトにも上映の詳細を掲載させていただきます。

5) 自主上映用 DVD の送付

上映会の2週間～10日前頃に上映用 **DVD** をお送りします。開催日までに必ず、当日使用する機材で映像のチェックをお願いします。機械との相性で、当日、映像が映らない・音声が出ない・配線が足らない等のトラブルを避ける為ですので、必ず事前に確認をお願いいたします。

6) 上映会当日

参加者の皆さま、上映会スタッフさん、主催者様の全員で楽しい1日をお過ごしください^^

5) 上映後

DVD と一緒に上映報告書をお送りいたします。その上映報告書に必要事項を記載のうえ、上映用 DVD と一緒に返却をお願いいたします。また、上映報告書にて算出いただいた上映料金のお支払い（銀行振込）を、一ヶ月以内をお願いいたします。

【その他】

- ・ 上映用 DVD の送料について

配給会社からお送りする際は、配給会社の負担、返却の際の送料は主催者様負担となります。

- ・ 物販について

上映会の会場にて、ぜひ映画パンフレットやサントラ CD の販売いただけたら嬉しいです。物販は委託販売となりますので、売れ残った商品はすべて返却いただけます。なお、売上の一部（5%～10%）を、主催者様に還元させていただきます。

- ・ スタッフ向け試写会について

事前にスタッフ向けの試写を希望される場合はご連絡ください。

※自主上映にお申込いただいた方に限ります。

※その際の DVD 送料は着払いとさせていただきます。

以上、簡単ではありますが、自主上映までの流れを記載させていただきました。

もしご質問等ございましたら、何なりとトータルプレイズ配給チームまでご連絡ください。

株式会社トータルプレイズ 映画配給チーム

メール：movie@totalpraise.jp

TEL：06-4303-5088 / FAX：06-4303-5091

ご質問等がございましたら、気軽にご連絡ください。

◇ 映画「天から見れば」公式ホームページ <http://tenkaramireba.com/>

◇ 入江富美子公式サイト <http://iriefumiko.com/>
